

登山学校レポート(第10回講習)修了検定

【福岡勤労者山岳会・田中敦典】

◎日程及び場所：2月12日(日) 小岱山

2022年度県連登山学校の最後の講習が終了した。最後の講習なのに地図読みが不十分でルートの間違え、様々な課題も浮き彫りになり、とても修了検定に合格したとは言えない状況である。講習の最後に講師の方々から、「技術的なことはこれから、まずは心構え」という言葉をいただいた。確かに、技術的なものは内容が多岐にわたり、一度教えてもらったと言っても身につくものではない。しかし「心構え」、つまり事故を起こさない計画や準備も含めた“きちんとした山行”や“仲間を大切に作る山行”とはどのようなものかということは、一年間の講習を通して理解することができたように思う。今回の講習でも、登山開始前に「見守りスイッチ ON！」にした。これからも掛け声だけに終わらず、掛け声を契機に本気でお互いを見守る、“きちんとした、仲間を大切に作る山行を行っていきたいと思う。

この一年間、実施されたすべての講習に参加することができた。そこでたくさんの技術や知識を教えていただいた。その上で、登山学校の意義は何かと問われれば、様々な人たちとの出会いである。講師の先生方はもとより受講生の仲間に出会い、打合せや山行を共にする中で、登山を愛好する姿や事に当たる時の一生懸命で真摯な姿勢に感じるものが多々あった。

昨年4月の登山学校の説明会で、県連登山学校は福岡県連における事故ゼロに向けた登山を実現するための人材育成の場であると教えられた。自分がそのような人材になれたかどうかかわからないが、この一年間登山学校で学んだことを少しでも自分の会に還元できれば、会のためにもなるだろうし、自分の知識や技術もより確かなものになり、そのことが事故を減らすことにつながるだろうと考えている。また、県連に対しても、本当にいろいろお世話になったので、登山学校経験者として自分ができる形で関わって行ければと思う。年度当初計画されていた10回の講習のうち、大雨の影響で沢登りがずれ込み、その影響で比叡山でのマルチピッチ登攀ができなかったのがたいへん残念であった。また、万一の場合に備えて、危機から脱出するためのロープワークを含むセルフレスキュー技術を学ぶ機会があればさらに良かったと思う。

この一年間、いつも優しく丁寧に多くのことを教えてくださった講師の皆さんと、山に対する真面目な態度と情熱でたくさんの刺激を与えてくれた私よりもはるかに若い受講生の仲間の皆さんに心から感謝申し上げます。本当に有難うございました。

